

(公社)鹿児島県鍼灸マッサージ師会創立70周年・法人化40周年 記念講演及び記念式典～70年間にわたる激動の歴史～

公益社団法人鹿児島県鍼灸マッサージ師会 会長 大勝 孝雄



鹿児島県鍼灸マッサージ師会創立70周年・法人化40周年記念講演及び記念式典を6月20日に鹿児島市のサンロイヤルホテルで開催しました。徹底したコロナ感染症対策を施し、定員制限、祝賀会および飲食なしで開催し、50人が出席しました。

表彰授与式を鹿児島県知事表彰、(公社)全日本鍼灸マッサージ師会会長表彰、(公社)鹿児島県鍼灸マッサージ師会会長表彰、(公社)鹿児島県鍼灸マッサージ師会感謝状、の授与を行いました(図1, 2, 3)。



図1 県知事表彰 今村 茂氏

祝辞は鹿児島県知事塩田康一代理 鹿児島県くらし保健福祉部長 谷口浩一様、(公社)全日本鍼灸マッサージ師会会長 伊藤久夫様(代読)、(公社)福岡県鍼灸マッサージ師会会



図2



図 3



図 4



図 5 下豊留佳奈 氏

長 古賀慶之助様，鹿児島鍼灸専門学校同窓会会長 泊 平八郎様，県議会議員 宝来良治様，市議会議員 志摩れい子様，自由民主党 鹿児島県ふるさと創生支部長 保岡宏武様より頂戴致しました。そして祝電を鹿児島県医師会会長 池田琢哉様より頂きました。

記念講演では，オフィスいろは代表 下豊留佳奈氏による「マニアックな薩摩の偉人話」というテーマで日本の医学を変えた，薩摩の偉人を楽しく講演されました（図4，5）。

この自粛したご時世のさなか，徹底した感染症対策で式典を開催できたことを来賓，会

員，ホテル関係者に深謝いたします。

～鹿児島鍼灸マッサージ師会の70年間にわたる激動の歴史～

「気張いやんせ！ 加勢しもんど！」は私達のキャッチフレーズです。

【あんま・鍼灸施術の危機】

昭和20年に太平洋戦争が終戦をむかえ，GHQは古来，日本で進化してきた東洋療法のあんま・はり灸を「非科学的であり，衛生的ではない」という理由で禁止しようとしたのです。これは，古来より人々に親しまれて

きたあんま・はり灸の最大の危機でした。この予想もしない出来事に、全国の施術者を中心とする有志が東京へ集まり、陳情やデモなどの存続運動を展開しました。その結果、禁止されることなく、昭和23年に営業法が施行されました。そして昭和26年、営業法は身分法へと改められます。時を同じくして、鹿児島市の団体が中心になり鹿児島県鍼灸あんまマッサージ師会が結成され会員数80人で船出をしています。

当時、鍼やあん摩はお金がかかる。保険が使えたととしても療養費という一般市民にはわかりにくい健康保険上の制度です。そこで、昭和38年に鹿児島県鍼灸師会と協調して、鹿児島県保険鍼灸マッサージ師連盟を結成し、健保推進決起集会を行うなどして、一般市民が療養費を用いた保険制度を使い易くなるように積極的に取り組みました。

昭和48年に現在の協会けんぽにおいて、療養費の受領委任という特例措置が鹿児島県で全国に先駆けて始まります。当時の県議のご尽力と県知事の英断による画期的なものでした。しかし、この特例措置は廃止になりました。

昭和56年、本会は社団法人の認可を得て、会員数260人で新たに「社団法人鹿児島県鍼灸マッサージ師会」が誕生いたしました。

【保険（療養費）施術の始まり】

昭和58年に民法に基づく代理受領という形に変わって容認されました。この鍼灸マッサージの代理受領での保険施術は、医師の同意書が必要であり、対象疾患も限定されるなど、様々な制約がありましたが市民に鍼灸マッサージ施術を受ける機会を大きく増やすきっかけとなりました。以後、保険施術が全国に普及したのも鹿児島県が先駆けとなっているようです。

平成6年頃から政府のゴールドプラン10カ年計画に乗り、健康保険の取扱いが少しずつ

増え、往療マッサージも盛んになり、労災保険や生活保護・自動車保険の取扱いも始まりました。

平成31年、厚労省が将来にわたり絶対に鍼灸マッサージ業には導入しないと切り切っていた受領委任の制度が、導入されました。代理受領の制度は地方管轄の保険者がいつでも廃止可能となり、制度の撤廃をすることができます。しかし、柔道整復師と同じ受領委任という制度は国政の厚労省が管轄しています。あはき療養費の歴史の中で、受領委任の制度導入は最も画期的なものとなりました。会員を対象に年15回程度、大小の保険取扱事務の講習会を行い、療養費取扱の普及啓発に努めております。

【ボランティア活動とスポーツ鍼灸・マッサージケア】

平成4年から約20年間、医療機関の少ない郡部を対象に治療奉仕を行いました。甑島、屋久島、種子島など離島をはじめ、年1回のペースでしたが、県内の町や村の福祉会館のような場所でボランティア施術を行いました。嬉しいことに、ほとんどの会場でマッサージや鍼のコーナーは好評を得、特にマッサージコーナーは長蛇の列ができるほどの人気でした。現在は鹿児島マラソン、いぶすき菜の花マラソン、とうごう天神梅マラソン、県下一周駅伝でのスポーツボランティアや鹿児島市民健康まつり、霧島市健康福祉まつり、南さつま市健幸ふれ愛フェスタなど霧島や川薩、南薩、大隅、曾於その他の地区でボランティアに汗を流し、鍼灸マッサージの振興や普及に努めています。

中でも印象に残っているのは平成20年10月、毎年、全国を巡って開催される全国健康福祉祭・ねんりんピックが鹿児島県で開催されたことです。半世紀に一度のチャンスです。会を挙げて、2日間にわたり延べ160人の会員が、

県下14会場で延べ2,100人の全国から来た選手や関係者・一般客に、マッサージや鍼施術のおもてなしをいたしました。これほど大規模なボランティア事業が実施されたのも、本会始まって以来の出来事でした。

【広報活動と公益社団法人】

県民への広報活動に関しては、平成5年1月、会報「三療かごしま」が創刊されました。現在はカラーの表紙で県内広報誌、情報誌として年2回発行し先般、第45号が会員を始め医療機関などに配布されております。

更に、平成16年、ホームページを開設いたしました。現在では、本会の活動内容や財務状況などあらゆる情報を詳細に公開しています。当初から一貫して会員の手作りによる運営・更新をしています。ホームページが開設されたことで広報にも力が注がれ、一般の方々へ私達の活動をより良く知ってもらえるようになりました。

平成22年4月、公益法人制度改革の機会に本会は社団法人から公益社団法人へと移行いたしました。会の総力を挙げ奮闘の甲斐あって、鍼灸マッサージや柔道整復の業界での認可は全国初という快挙でした。

私達の目的は「医療・保健・福祉の増進に寄与する」ということになり、鍼灸マッサージの普及啓発、奉仕活動や講演会の実施、施術者の資質向上が主な事業となりました。さて、公益移行後10年が経ち、本会の保険取扱いは保険者からの信用度が一段と増し、行政との折衝においても公益であるメリットが随所に現れており、これからも信念と情熱をもって公益事業に取り組んでまいります。

【記念式典と全国大会の主催】

平成13年、鹿児島サンロイヤルホテルにおいて、創立50周年・法人化20周年の記念式典・後援会・祝賀会を盛大に挙行いたしました。

会歌やロゴマークも作られています。また、記念事業として、記念誌の発行や、アメリカ西海岸へ記念研修旅行にも出かけています。

平成23年6月、本会の創立60周年並びに法人化30周年を記念する式典・講演会・祝賀会が、会場も同じく鹿児島サンロイヤルホテルで行われました。出席者は来賓や会員を合わせ120人以上に上りました。記念講演は宝井琴調師匠による「杉山和一検校」の講談が行われ、記念研修旅行は前年に、18人で3泊4日にて台湾を訪問しています。

平成30年10月、47都道府県の持ち回りで開催される東洋療法推進大会が、鹿児島県で2日間にわたり開催されました。延べ800人を超える参加者は地方大会としては特に盛会だったということです。会場は鹿児島サンロイヤルホテル。来賓には三反園 訓前鹿児島県知事や森 博幸前鹿児島市長、全日本鍼灸マッサージ師会より伊藤久夫会長をはじめとし、各方面から多くのご出席いただきました。特別公演は志學館大学の原口泉教授が「西郷隆盛の文明観」というタイトルでNHK大河ドラマ「西郷どん」の放送にちなんだ講演をされました。夜は懇親会が行われ200人近い人で賑わい、二次会も80人を超す参加者で夜遅くまで親交を深めました。

【コロナ禍での本会の取り組み】

令和2年、新型コロナウイルス感染症により世界中が非常事態に陥りました。未曾有の危機が起こり、日本国民にも休業や外出自粛の要請がなされ、東京オリンピック・パラリンピックが延期、鹿児島県でも国体や大規模イベント等のすべてが中止や延期となりました。本会も例に漏れず、スポーツ・敬老・県民へのボランティア活動や研修会などの事業の全てが延期や中止、変更を余儀なくされました。日本は行政と医療従事者の懸命な努力もあり、世界的にみても死亡者・重症者が抑



図 6

えられてはいますが、世界の人口77億人のうち新型コロナウイルス感染者が令和3年に1.8億人を超え、わが国の新型コロナウイルス感染者も80万人に達しています。このような中、本会はコロナ禍に対応すべく、新しい行動変容を試み、対面しないオンラインによる理事会、各種委員会などの会議、生涯研修会、そして毎月行われる療養費取扱い講習会は感染症対策を徹底しながら実施することができました。

尚、老人介護施設などへの往療が立ち入り禁止となった影響で、本会会員にとって療養費取扱高が前年比で毎月16%から最大37%も減るという破壊的な減収となりました。

そこで、本会は「新型コロナウイルス感染症に伴う、鍼灸マッサージ施術所に係る要望書」を県庁に陳情いたしました。その甲斐あって「鹿児島県新しい生活様式に対応するための感染防止対策支援補助金」の交付が決定し、有難く活用させていただきました。更に本会の会員も新型コロナワクチン大規模接種会場で優先接種して頂きました。

私達の仕事は患者に接して施術を行うエッセンシャルワーカーです。現在、コロナ禍で

多くの職種は在宅テレワークによりビジネスを展開しています。私達もSNSを利用して施術予約を頂き、パソコン・スマートフォンなどを駆使して施術所の情報を発信し、1対1のオーダーメイド施術を行うこともテレワークの一つの形です。私達はこのコロナ禍のピンチをチャンスととらえ、この難局を乗り越える鹿児島県鍼灸マッサージ師会を創生し、「気張いやんせ! 加勢しもんど!」を合言葉にアフターコロナの世の中に飛躍したいと考えております (図6)。